

平成 27 年度 第 5 回 保育園・学童保育保育料検討委員会 (議事要旨)

日時：平成 28 年 3 月 23 日(水) 午後 7 時から

場所：区役所本庁舎 2 階 201・202・203 会議室

出席委員：松原委員、和泉委員、塩野目委員、秋成委員、菅谷委員、岡委員、加藤委員、江尻委員、澤井委員、松本委員、田原委員

以上 11 名出席

区側出席者：市野こども家庭部長、後藤子育て支援課長、柳沢子ども家庭支援センター所長、浜口保育サービス課長、岡本待機児担当課長、各関係係長 7 名

以上 12 名出席

傍聴者：8 名

1 開会

【後藤子育て支援課長】

- ・議事録作成のため録音させていただく。議事要旨は、公開させていただく。

【市野こども家庭部長】

- ・本日は、お忙しい中、ご出席いただき、感謝を申し上げる。
- ・検討委員会は、昨年 10 月 28 日の第 1 回目開催から始まり、本日が最終回という予定である。
- ・前回の会議で報告書案をお示しし、いただいた意見を踏まえ、修正した報告書案を用意したので、ご議論いただきたい。

2 議事

【松原委員長】

- ・資料の確認を事務局からすること。

【子育て支援担当係長】

- ・資料確認

【松原委員長】

- ・資料について、事務局説明すること。

【後藤子育て支援課長】

- ・資料「保育料(保育園・学童保育)のあり方に関する報告書(案)」について説明。

【菅谷委員】

- ・報告書 8 ページ、現状の保育料階層の税額幅のバラツキについては、何かの事情があってバラツキがあったのではないのかと思うが、いかがか。

【後藤子育て支援課長】

- ・平成 27 年 9 月から保育料算定根拠が所得税から住民税に変更される際、それまでの所得に応じた保育料ができる限り変わらないように階層区分の設定を行ったため、現在の階層区分間の税額幅についてもバラツキが生じている。

【菅谷委員】

- ・この点についての方向性は示されるのか。

【後藤子育て支援課長】

- ・これまでの検討委員会の中で、税額幅にバラツキがあることは公平性に欠ける、国基準の保育料階層に対して均一にするという議論だったと認識している。

【松原委員長】

- ・このことについては、全員にご了解いただけたと思っている。

【菅谷委員】

- 全体的に保育料が上がらない方向がよい。保育料算定根拠が所得税から住民税に変更となる際も、保育料が上がらないよう設定していたが、横浜の例では半分の方が上がっているという報告もある。受益者負担が重ならないようにしていただきたい。

【松原委員長】

- 報告書を受け、大田区として保育料の改定をする時に菅谷委員の意見も参考にさせていただきたいと思う。

【和泉副委員長】

- 8 ページに国基準保育料と大田区現行保育料の表があるが、大田区現行保育料の 2 号認定の 3 歳児、4・5 歳児の保育料は、大田区の保育単価の金額を設定をしているという理解でよいか。それとも、さらに下回っているのか。

【後藤子育て支援課長】

- 下回っている。

【和泉副委員長】

- 最高階層を新たに追加する際に、年収でいえば千数百万を超える方々に応分の負担を求めるという観点では、保育単価に近い金額まで設定するという方向を一文加えていただければと思う。
- 3 歳未満についても、同様に高所得の方にさらに補助をしている状況であり、保育階層を追加するのであれば、保育単価に近いところまで保育料の負担を求めるという方向性が望ましいと考える。

【松原委員長】

- 保育単価は毎年変わる。保育料に反映するために毎年改定することはとても難しいと考える。

【後藤子育て支援課長】

- 資料の中で、23 区や近隣政令都市の保育料の平均を示している。その中で、過去 3 年位で改定した特別区の保育料平均を参考にすべきという意見をいただいている。今までの検討の中では、国基準の金額まで保育料を上げるという議論はなかったと認識している。

【岡委員】

- 大田区の実態を考えると、推定年収夫婦で 1,130 万円は、決して高所得ではないと思う。子どもの成長に伴って負担が増えていくというところでは、高所得階層の負担について、そこまで詰めていなくてもよいと思う。
- 保育の質の部分については、報告書には盛り込まれていないが、区立園より私立園の方が、サービスがよいという意見が、区民委員からあった。比較は難しいと思うが、区立園でも利用者のニーズに沿ったサービスができるよう努めていくということはポイントであると思う。
- 15 ページ、17 ページの表は、見直しの一部分の再掲であり違和感がある。なくてもよいと思うが、いかがか。

【後藤子育て支援課長】

- 15 ページ、17 ページの表については、表として表現できる見直しの内容を整理のためにまとめたものだが、減額・低減するところだけ表にまとめたともとられかねない。誤解を生じるのであればあえて表現しなくてもよいかと考える。

【松原委員長】

- 15 ページ、17 ページの表について、いかがか。
- 特に岡委員の意見に反対という意見もないため、15 ページ、17 ページの表については削除するということがよいか。

【田原委員】

- 負担軽減を図るという表現が沢山ありほっとしている。15 ページ、17 ページの表については、岡委員と同意見である。

【松原委員長】

- 15 ページ、17 ページの表については、削除する。

【岡委員】

- 2 人目についての考え方が盛り込まれていない。

【後藤子育て支援課長】

- 2人目のカウントの仕方については、国は、年収360万円未満程度の方について、多子減免に関わる子どもの年齢制限の撤廃を打ち出している。これについては、区も同様に行っていく。今回は、見直しの中でいろいろな減額が盛り込まれているので、全ての世帯に対し年齢制限撤廃ということは、現段階では難しいと考える。

【松本委員】

- 多子減免のカウントの仕方について、何らかの形で盛り込んでいただきたい。

【松原委員長】

- それでは、国の今の動向と、それに対し大田区は早急に実現をする、という文章を加えることとする。
- その上で、所得制限をどこまでにするのかというのは、国の制度ができてからの話となる。

【菅谷委員】

- 1ページ、はじめにでは、2つ目の文章に「児童福祉法に基づく保育の質を確保した保育サービス」といった文言を入れた方がいいのではないかと思う。2つ目の文章の後段はなくてもよいと思う。代わりに医療費の無償化、保育所が増えたこと、認証保育所保育料の補助額の改正などを盛り込み、よい保育をしていきたいという記述があった方がよいと思う。
- 3ページ、就学前児童の在籍状況についても、記載以外の、無認可保育所等の数が入っていない。数字だけを見ると保育所利用児童が少なく見える。もう少し丁寧に書いた方がよいと思う。
- 7ページ、13ページ視点2、15ページなど、全体を通し0歳児にお金をかけることがいけないことなのかと捉えられないかと感じた。0歳児別枠というところでは、保育料は応能負担が原則だが、応益負担という方向性になっていくのではないかと思ってしまう。
- 13ページ視点4では、大田区の状況等を加筆していただけたらよいと思う。
- 16ページの保育の質の確保の視点から見直しでは、公定価格を見直し保育士の処遇改善を行い区も速やかに対応しているとあるが、園において保育士の方々の人件費として適切に充てられているのか把握すべきと思う。
- 18ページ見直しのサイクルにおいては、実態調査を行い、実態をつかんだ上で検討すべきと考える。

【松原委員長】

- 0歳児については、ニュートラルに数字を出しているだけであり、菅谷委員のご心配のような意図はない。
- 保育の質の確保での、実態把握については議事録に残し、ご意見として受け止めていただきたいと思う。
- 子どもの貧困対策については、資料等は出しており、ここでは、非課税世帯の話を中心に議論してきている。
- 見直しに際しての実態調査については、かがやきプランでもニーズ調査が想定されると思うので、その時に経済状況についても把握すべきと思っている。

【松本委員】

- 0歳児保育経費が飛びぬけているというところで、人件費がほとんどであり、看護師の人件費が入っているとのことであったが、0歳児でも看護師に看ていただくことはそんなに多くなく、2歳児以上の子どももお世話になることがある。0歳児に看護師の人件費をすべて計上することに違和感がある。今後、人件費の透明化、按分の仕方を考え直していただけたらと、今回見直しところではないと思うので意見として留めていただきたい。

【後藤子育て支援課長】

- 看護師は、0歳児園への配置が必置となっている。逆に言うと、0歳児園でない園には、看護師は配置されていない。このため、全体で見た時に0歳児に計上させていただいた。仮にすべてのクラスで均等に割ったとしても0歳と1・2歳児の運営経費には、かなりの差があるというのは事実である。

【松原委員長】

- 配置基準上の計算と理解している。

【秋成委員】

- 18 ページ 4 行目「問題である」と言い切っているところは大丈夫か。
- 16 ページ 保育施設の指導監督を適宜行いというところは、新たな新規事業もここに付け加えてもよいのではないかと思う。また、6 行目の区立 18 拠点園のことも何か説明があってもよいかと思う。

【松原委員長】

- 16 ページについては、事務局と調整する。
- 18 ページについては、どうか。

【田原委員】

- しっかり言わなければならないところは表現してもよいと思うので「問題がある」でよいと思う。

【松原委員長】

- 秋成委員よろしいですか。
- それでは 18 ページ 4 行目はこのままということにする。

【後藤子育て支援課長】

- 18 ページについては、工夫できれば修正を含めて対応したいと考える。

【松原委員長】

- 大田区の教育保育については、大田区も子ども子育て会議があり、議論する場はあるが、せっかくの機会であるので、この報告書とは別に、大田区の子ども子育て支援に関することでご意見・感想があればお願いしたい。

【菅谷委員】

- 待機児が社会的な問題となっており、大田区の保育に期待が寄せられているところである。
- 新規開設の認可保育園に行ってきた。認証保育所を含め区内に 5 か所位運営しており、事業を始めて 10 年になる事業者であるが、産休・育休制度について問うたが、よく分からなかった。大田区として、保育士が定着でき、安心して預けられる保育環境の整備を図っていくことが大切である。

【岡委員】

- 認可保育園については、これから会計指導もしていく。認証保育所の保護者負担の差額についても課題があると感じているが、行政がある程度関与している保育所と関与していない保育所で保護者負担を同じにしていくというところでは、認証保育所にも行政のコントロールが求められていくと思う。
- 待機児の問題について、大田区で補助金を出している認証保育所などで、近隣区の子どもの入所が見受けられる。区境をしっかりとしろと言うわけではないが、大田区の待機児対策に 100%活かされていないのではないかと感じる。大田区は他区に比べ認可保育園の内定が遅いので、他区の保育所にも入りづらいのではないかと思う。認証保育所の入所選考は各保育所で行っているため、選考について行政が関与していかなければならないのではないかと感じる。

【松本委員】

- 以前、0歳児よりも1歳児の受入れ枠を増やし、1歳児の待機児童を減らしていきたいという意向があると聞いた。民間では育児休暇は1歳まで、または1歳3か月間までであるが、例えば7月生まれの場合は、年度の途中で復帰することとなり、結局0歳の4月に入園させるということになる。1歳になった時に入園できるのがベストであるが、そこが改善されなければ、やはり0歳児での入園は減らないのではと思う。
- 子どもが就学すると、保育園のように朝早くから預けられず、開門まで学校に入れない。このため、始業時間に間に合わない状況となる。例えば、小学校の開門を少し早める等をしていただかないと、小学校1年生の壁はこうしたところにもあると思った。
- 今は小学校での宿題も少なく、子どもの勉強量に不安を感じる。塾に通う子と通えない子で格差が生まれるのではないかと思う。格差が出ないように、学童保育でも教育的な要素を少し求めていけないかと思う。

【澤井委員】

- 報告書案について、階層別に細かく区切っていくことは賛成である。
- 認証の代表としては、消費税が8%に上がった中で保育料の限度額は8万円であり、保育料はそれほど上げておらず、消費税が10%になったらどうするか考えなくてはならない。状況も見て、行政と相談しながら進めていきたい。

【田原委員】

- 小規模保育所に入れた場合、3歳からまた保育所を考えなければいけないと不安を感じている保護者もいる。連携園はあるが、3歳以降に入園できる約束がされているわけではない。現在、小規模保育所が沢山出来ている中、3歳以降の保育について大変になるのではないかと感じる。

【澤井委員】

- 他区の子どもの入園について、自分の保育所は他区の子どもにも対応しているが、それなりの形で受け皿として検討することの必要なのではないか。大田区の子どもも他区の保育所に行っている場合もある。あまり明確に区切るのもどうかと思う。

【岡委員】

- 大田区は、他区に比べ認可保育園の一時内定が遅いので、入園で負けてしまうのではと懸念している。先ほど小規模保育所の場合は、3歳からの入園先が困るという意見があったが、今回の一時内定の不承諾、1,800人という数字の中には、親の就労状況は変わらないが、3歳児待機になったという子はいるのか。

【保育サービス課長】

- 全くいないとは言えないが、計画的に様々な取り組みをしている。大田区では全国的に言われている3歳の壁については、大丈夫であると認識している。

【岡委員】

- 安心して預けられるよう、責任を持って対応してほしい。

【松原委員長】

- 子ども・子育て会議のニーズ量の再調査の際にぜひ勘案をしいていただきたい。

【和泉副委員長】

- 情報提供として、所沢市では、昨年12月に入園審査の基準改定を行い、育児休業で退園を選択された方には、フルタイム共働きの点数に加え、ほぼ必ず入園できるように第1子、第2子とも次の応募時点で100点ずつ加算をし、同じ保育園に入れるようにしている。1歳2歳の枠を自主的に空けていただくような利用調整のやり方もあるかと思う。

【松原委員長】

- それでは、よろしいか
- 昨年10月28日の1回目から今日で5回目となる。委員の皆様が熱心に議論をしていただき、改めて感謝を申し上げます。
- この検討委員会の報告書が、大田区の子どもたちの健やかな育ちの一助となることを願っている。

【市野こども家庭部長】

- 委員の皆様には、忙しい中5回にわたる審議を重ねていただきお礼を申し上げます。
- 当初事務局からご提案した視点は「公平性」「受益と負担の関係性」「少子化対策」の3点であったが、その後、委員の皆様のご意見で「子どもの貧困対策」「保育の質の確保」と重要な視点を追加いただき、深い議論ができたと思っている。
- 改めて、委員の皆様のご尽力に、そしてまとめていただいた松原委員長に、感謝を申し上げます。
- 保育料に留まらず、子育て支援全般に幅広い意見をいただいた。いただいた意見を参考にし、保育園についてはご意見を踏まえて、一層充実するように取り組んでまいりたい。

【松原委員長】

- 平成27年度第5回大田区保育園・学童保育保育料検討委員会を終了する。